

国道2号と国道188号のバイパス整備について



岩国市のバイパス整備について

幹線道路の整備は、交通混雑の緩和や交通安全の確保はもちろんのこと、都市間ネットワークの構築による広島広域都市圏内の連携・交流の促進や、ダブルネットワークの確保による災害に強い道づくりとして大変重要です。

また移動時間の短縮などによる観光・ビジネスなどの面で、潜在的な地域力の底上げとなるほか、岩国錦帯橋空港や重要港湾・岩国港などの輸送施設や、三次救急医療機関である岩国医療センター、いわくに消防防災センターなどからなる医療・防災・交流拠点、愛宕スポーツコンプレックスなどが集積する愛宕地区、市が岩国医療センター跡地において福祉・交流拠点のまちづくりを目指す黒磯地区(いこいと学びの交流テラス)へのアクセス性の向上などさまざまな効果が期待されており、地方創生、国土強靱化に欠くことができないものです。

このうち、本市の主要な幹線道路である、国道2号・国道188号は、広島県大竹市小方から本市長野までの区間に「主要渋滞箇所」が15カ所あり、渋滞の緩和が大きな課題となっています。

こうしたことから、国土交通省では、大竹市小方から山手町までの区間において、国道2号のバイパス「岩国・大竹道路」(延長9.8km)を整備しています。

また国道188号のバイパスである「岩国南バイパス」(延長4.9km)は、山手町から藤生町までの全区間が暫定2車線で開通しており、さらに藤生町から長野付近まで延伸する、「藤生長野バイパス」(延長7.6km)の事業も始まっています。

「岩国・大竹道路」

岩国・大竹道路は、区間のほとんどがトンネルと橋で構成され、大竹市御園地区で山陽自動車道に接続し、山手町で岩国南バイパスに接続する計画と



なっています。

既に室の木町では、(仮称)室の木インターチェンジへつながるアクセス道路の改良工事が行われています。今年度は引き続きアクセス道路の改良工事などが予定されていることに加え、国土交通省の第三者機関であるトンネル技術検討委員会では、昨年度までに実施した地質調査結果をもとに(仮称)山手トンネルに関連する事項が審議される予定です。

「藤生長野バイパス」 (岩国南バイパスの南伸)

藤生長野バイパスは、藤生町3丁目から長野付近までの区間で事業着手された幹線道路です。本バイパス整備区間と並行する国道188号では、通勤時間帯の渋滞発生に加え、異常気象発生時の波浪による路面の冠水や交通事故発生時の代替路線がないなどの大きな課題があります。

そのようなことから、国土交通省において令和元年度から新規事業化され、既に測量作業および地質調査、設計が実施されています。今年度は引き続き地質調査を実施するほか、詳細構造の設計を行う予定です。

岩国市の幹線道路のこれから

広島広域都市圏の西の要衝である岩国市にとって、幹線道路は周辺市町と共存共栄していくための重要な都市基盤施設であり、スピード感を持って整備を進めていくことが大切です。

市では今後も、周辺の自治体や関係機関としっかり連携しながら、多くの人々の期待を力に「岩国・大竹道路」および「藤生長野バイパス」(岩国南バイパスの南伸)の早期完成に向け、官民一体となって、幹線道路の整備に取り組んでいきます。